JFグループの一員として

水産業への貢献

海と暮らしを守るために

周囲を海に囲まれた日本。
海がもたらす恵みを誰もが享受してきました。
地球温暖化や海洋汚染による生態系への懸念。
農林中央金庫は、JFグループの一員として、
日本の食を守るためにも、
漁業者をはじめ浜のみなさまとの連携を進めています。

環境・生態系保全活動への支援など

農林中央金庫では、JFグループの一員として、JFグループが行う保全・再生活動や
資源管理型漁業などへのさまざまな支援を行っています。

環境保全活動

漁業者は、環境や生態系を守り育て、漁業生産を維持するために、藻場づくりや干潟の管理等に努めています。そのため、JFグループは本来業務として「資源保護や管理」「害敵生物の駆除」「種糸やプレートによる藻場造成」「干潟における二枚貝や稚貝の移植・放流」「サンゴ礁域における赤土などの流入防止対策」などさまざまな保全・再生活動を行っています。

さらには、JFの女性部や青壮年部を中心に、漂着したゴミ等の回収・清掃を行う「海浜清掃」や、森を守ることを通じて豊かな海づくりを目指す「植樹活動」などにも取り組んでいます。また、天然油脂を使った肌にやさしく自然環境に負荷も少ない石鹸のオリジナルブランド“わかしお”を開発し、使用運動に取り組んでいます。

JFオリジナルブランド石鹸“わかしお”

資源管理型漁業の推進

“獲る”から“育てて獲る”へ。JFグループにおいても、資源管理活動として、各浜の青壮年部が中心となり、漁獲量を決める、産卵場を禁漁区にする、漁具や漁法を制限し小さい魚は獲らないなど、さまざまな取組みを行っています。また、稚魚や稚貝を育てて放流するなど、資源回復に向けた積極的な取組みとして、「資源管理型漁業」を全国各地で実践しています。

また、JFシェルナース(貝殻魚礁)を設置して、稚魚のえさ場、隠れ場、保護育成場や産卵場などを作り、資源の回復と貝類養殖の副産物である貝殻のリサイクルに取り組んでいます。そのほか、藻場の造成・干潟の耕耘(こううん)など、将来に資源を残すためのさまざまな取組みを行っています.

当金庫は、こうしたJFグループの自主的な活動へ協力するため、浜の清掃作業に活用する「海浜清掃ゴミ袋」を提供しています。また、子どもたちや地域住民に対する啓発普及活動として、地球環境について学ぶ糸口としての「海藻おしば栞」や、魚食を中心とした日本型食生活の推進や食育活動に寄与する箸などを提供して喜ばれています。

平成23年度は、「海浜清掃ゴミ袋」を海浜清掃に参加した全国306のグループ(取組人数60,250人)に20万枚配布し、「海藻おしば栞」を全国の女性部、青壮年部に18万枚を配布しました。

海藻おしば栞

海浜清掃ゴミ袋

JFシェルナース※

海浜清掃活動

資源管理型漁業※

兵庫県域の森づくり活動

※写真提供:JF全漁連

水産業への貢献

現地Report

JFマリンバンクの利子助成制度を活用した組合員への金融サービスとともに、豊かな海を守り、魚食の普及に取り組む“新湊漁業協同組合（JFしんみなと）”（富山県）の取組みを紹介します。

漁業から地域を元気に、そして豊かな海の幸を全国に

新湊漁業協同組合（JFしんみなと）

平成15年に新湊漁業協同組合・堀岡漁業協同組合・海老江漁業協同組合・伏木漁業協同組合が合併し設立。天然の生け簀と呼ばれる富山湾で豊富な魚種の水揚げを誇る。

新湊漁業協同組合（JFしんみなと）の概要
（平成24年3月31日現在）

▶ 組合員数（含准組合員）	471名（含准組合員175名）
▶ 事業の種類	販売事業・購買事業・共済事業・製氷事業・利用事業・指導事業等
▶ 漁業種類	定置漁業・かご縄漁業・小型底引き漁業・延縄漁業・刺し網漁業・イカ釣り・一本釣り
▶ 役職員数	理事12名、監事3名、職員15名
▶ 管内拠点数（4）	本所・3連絡所

漁船新造で安全・効率的なシロエビ漁を

“富山湾の宝石”とも呼ばれ全国的に有名なシロエビの漁業を営む縄井恒晴さんは、昨年4月に漁船を新造しました。シロエビは、富山湾でも新湊などの一部の地域でしかとれない希少な特産品です。また、漁港からわずか数キロしか離れていない庄川河口が漁場とあって効率的な操業が可能です。

そもそも縄井さんが漁船を新造しようと思い立ったのには、いくつか理由があります。サラリーマンだった息子さんが結婚を機に「漁師を継ぐ」と言ってくれたことも、その一つです。加えて、操業の安全性を重視するようになったこと、最新設備で効率的な漁を行えるようにすること、そして何よりも、JFしんみなとやJFマリンバンク富山が親身に相談に乗ってくれたことや、JFマリンバンクから利子助成のある漁業近代化資金の紹介を受けたことが大きく後押ししてくれました。

「新しい漁船建造のための投資が必要でしたが、JFマリンバンク富山のおかげで本当に助かりました」と縄井さんは笑います。

シロエビ漁は、毎年4月1日から11月末日までの8カ月間と決められ、乱獲による資源の減少に歯止めが掛けられています。

「新造した安全性の高い船で、乗組員が安心して操業できるようになりました」と
縄井 恒晴様

水揚げされたばかりのシロエビ

資金需要を通して漁業の近代化に貢献

JFマリンバンク富山
専務理事
窪田 精治様

JFマリンバンク富山は、県内に本店のほかに漁協に隣接する支店・営業店11店舗を有し、各種貯金、貸出業務、決済業務など、地域社会のメインバンクとして、水産業に携わる人々の暮らしを支えています。

今後も、漁業者の船舶や設備の更新にかかる「設備資金」や「運転資金」のニーズのほか、地域の方々の生活資金の資金需要に応えるために、JFと一体となって取り組んでいきたいと考えています。

写真左から：
一人ひとりのつながりを何よりも大切にしている
JFしんみなと青年部のみなさん（青年部理事の縄井恒さん、
青年部部長の矢野恒宏さん、青年部副部長の亀谷昌克さん）、
JFマリンバンク富山新湊営業店のみなさん、JFしんみなとから地元小学校に提供しているカニ給食

豊かな海をいつまでもきれいに

新湊漁港は、富山湾の中心部に位置し、四季を通して多くの回遊魚が集まります。また、庄川と小矢部川という2つの河口部に隣接し、地元で“あいがめ”と呼ばれている海谷があるため深海性の魚介類にも恵まれています。

「ここは、本当に豊かな海です。ブリ、甘エビ、ホタルイカ、シロエビ、バイ貝、ベニズワイガニなど魚種が豊富なのが特徴です」と尾山春枝組合長は言います。

JFしんみなとでは、この豊かな海を守るために、青年部が近隣の山で植林活動をする一方で、女性部が中心となって海を汚す雑排水の浄化活動や、合成洗剤の使用削減運動などに熱心に取り組んでいます。

“きときと”な魚介類の紹介と普及に奔走

こうした“豊かな海を守る”活動に熱心な尾山組合長は、魚食の普及活動にも積極的に取り組んでいます。例えば、地元のテレビ番組で“旬の魚を活かした料理”を紹介する一方で、地域が主催するイベントなどに率先して参加したり、若いお母さんや子どもたち、また地元の高校生・短大生を対象とした料理教室を開くなど、枚挙にいとまがありません。

女性部食堂のみなさん

とれたてのお刺身を中心とした特別定食。安くておいしいと評判のメニューです。

そんなある日のこと。料理教室で“アラ汁”（魚を三枚おろしにした残りの部分＝アラを利用した汁物）を作ったところ、「はじめは『魚って生臭い』と敬遠していた男子高校生が口にするなり『うまい！』と絶賛して、しまいには、お鍋ごと両手でつかんで豪快に飲み干してしまったんです（笑）」と尾山組合長は嬉しそうに話します。「本当に新鮮な魚介類は、臭みがまったくなく、おいしいですよ。残念なことに、最近の若い人たちは、とれたての新鮮な魚介類を食べる機会がないのですね」と尾山組合長。

JFしんみなとでは、一人でも多くの“魚嫌い”を減らすため、新湊の“きときと”（富山の方言で「とびきりに新鮮」）の魚介類の紹介と普及活動に奔走する毎日です。

地元の魚料理・魚食文化を伝える

JFしんみなと
代表理事組合長
尾山 春枝様

新湊は“漁業の町”として広く知られてきました。JFしんみなとは、地域活性化の一翼を担う存在として地域の人々に支えられながら、水産資源管理や魚食普及活動を行っています。

しかし、核家族化が進む各家庭では、手間の掛かる魚料理は敬遠される傾向が強く、この地域でも魚食離れは深刻な問題です。

こうした課題解決の糸口として、JFしんみなと女性部では、「新湊漁協女性部食堂」を開くなど、率先して魚食の普及に努めています。また、県内外のイベントにも参加し、カニすり身鍋など代表的な富山の浜料理の醍醐味を発信しています。

今後とも、新湊の魚を全国の多くの方たちに知っていただくための活動を続けていきたいと思っています。

水産業への貢献

さまざまな取組み

水産業振興に関する当金庫の貢献活動

水産業に対する教育啓発活動

全国漁業協同組合学校（千葉県柏市）は、「協同組合精神を持った漁協職員の養成」を目的としたJFグループで唯一の教育専門機関です。昭和16年に創設されて以来、JFおよび漁村の指導者を多数養成し、送り出しています。高校や大学等を卒業しJFグループ団体への就職を目指す新卒者や、漁協・漁連等の在職者が漁業や漁協に関する理論と実務を学んでいます。

当金庫も、賛助会員として、また、一部セミナーの講義等により、将来のJFを担う若きリーダー育成に協力しています。

「豊かな海づくり」運動への協力

当金庫は、昭和56年から毎年開催されている水産業最大のイベント「全国豊かな海づくり大会」に協力しています。

平成23年10月30日には、第31回大会（主催：豊かな海づくり大会推進委員会、後援：農林水産省、環境省）が天皇皇后両陛下ご出席のもと鳥取県で開催され、当金庫も中央機関として協賛いたしました。

こうしたイベントを通じて、水産資源の維持培養・海の環境保全に対する意識の高揚を図り、水産業への認識を深める活動に支援を行っています。

漁船海難遺児育英資金年末募金（水色の羽根募金）への協力

漁業は、大自然のなかでの厳しい仕事のため、安全管理に最善の努力を払っているものの、残念ながら毎年多くの尊い人命を失う事故が後を絶ちません。

漁船海難遺児育英会は、漁業従事中に起きた海難等事故の遺児に対し、就学上の援助を行っている団体です。農林中央金庫も当育英会設立以来、育英資金の趣旨を理解し、募金に協力しています。

水色の羽根募金贈呈式

JFマリンバンク「海の天気予報」の放送

JFマリンバンクでは、ニッポン放送をキーステーションに全国32局を結んで、JFマリンバンク「海の天気予報」を展開しています。

番組内容
- 全国の臨海地区を結んだ放送局ごとに「海の天気予報」を提供。
- 毎週月～金曜日　朝6～7時台を中心に放送。

ABCラジオでパーソナリティーを務める
慶元（けいもと） まさ美（み）さん

写真提供：JF全漁連

写真提供：JF全漁連

全国海の子絵画展への協力

当金庫は、昭和53年から毎年開催されている「全国海の子絵画展」（主催：JF全漁連、後援：文部科学省・農林水産省ほか）に協力しています。

この絵画展は、小・中学生のみなさんが絵を描くことを通して、海に対する興味、漁業に対する理解や夢を持って育っていただきたいとの願いを込めて実施されています。

海の子絵画表彰者

平成23年度も「第34回全国海の子絵画展」が実施されました。全国から寄せられた約25,000点（参加約1,000校余り）もの応募作品のなかから、文部科学大臣奨励賞、農林水産大臣賞をはじめ水産庁長官賞、NHK会長賞、教育美術振興会理事長賞、農林中央金庫理事長賞、全漁連会長賞を選出、表彰されました。ここでは、農林中央金庫理事長賞を受賞された方々の作品を紹介します。

小学校の部

「とれたてピチピチおいしいよ！！」
岡本さん（兵庫県）

「イカとおにごっこ」
畑平さん（高知県）

「うみのみんなとおまつり」
塩月さん（宮崎県）

「カジキつり」
川野さん（鹿児島県）

中学校の部

「桜エビの水揚げ」
杉本さん（静岡県）

「今日も大漁」
青木さん（山口県）

全国青年・女性漁業者交流大会から

全国の青年・女性漁業者が日頃の研究・実践活動の成果を発表する、全国青年・女性漁業者交流大会が開催されており、当金庫も後援しています。これは、水産庁補助事業のもと、発表を通じて、広く相互の知識や研究を交換し深めることにより、水産業・漁村の発展・活性化のための技術・知識などを研鑽することを目的としているものです。平成24年3月に開催された第17回大会において「農林中央金庫理事長賞」を受賞された5グループのうち、多面的機能・環境保全部門で受賞された「千葉県鴨川市漁業協同組合女性部」について紹介します。

笑顔でつなぐ地域と未来

千葉県 鴨川市漁業協同組合女性部

「がんばろう！千葉」

太平洋に面し、房総半島南部に位置する鴨川市は、漁業が基幹産業の一つであり、イワシ類、サバ類、ブリが主な生産魚種です。最近は魚の消費量が減り、若い人が魚を食べないと耳にすることが多くなりましたが、鴨川市漁協女性部では、「鴨川の素晴らしい海の幸を、若い人や都市部の人にもっと知ってもらいたい。たくさん食べてもらいたい」と思い、子どもたちへの魚の調理指導や、イベントへの参加などの活動を地道に続けています。

昨年3月11日に起きた東日本大震災では、千葉県でも津波や液状化により大きな被害を受け、東京電力福島第一原発事故の影響で、千葉の魚が売れなくなったり、価格が下がったりしました。そのなかで、当女性部部員は千葉県主催の「がんばろう！千葉」キャンペーンに協力し、都市部のスーパーで鴨川産鮮魚のPRをするなど、消費者のみなさんにそのおいしさを実感してもらいました。

このような、消費者と売り手のコミュニケーションを通じて、お互い信頼を深めることが、魚離れを食い止めたり、水産物の消費拡大につながると実感しています。